

光武十年七月一日創刊

大韓自強會報

第三號

「大韓自強會月報」目次

刊行辭	 1
解題	 iii
第一號	 一
第二號	 七
第三號	 二五
第四號	 二七
第五號	 三五
第六號	 三九
第七號	 四九

라諺傳伯夷叔齊一自首陽으로有時訪箕子于平壤이라하고李詹이云今海州에
首陽山하니隋書裴矩傳所謂高麗之本孤竹國云者一指今海州也라하니竹溪吳
氏曰此說이雖無明証이나千百載以上事를豈可必委之無稽也리오安順庵鼎福氏
曰一統志永平府에孤竹國하니三君塚이在焉이라하고河東之首陽山에又有夷
齊墓하니此必一眞一假也라中史之不可信이如此호즉我國의首陽山이安知非夷
齊의立命之地乎아

以下次号

地理一

○我國은亞細亞東部의一半島國이라西北은滿洲와遼東과土壤을接하고西는黃
海를限하야淸國의山東省과隣하고南은朝鮮海峽을臨하고東은日本海와接하고
東北은土門江을限하야淸國의吉林省과俄領海參威地帶와近하야三面에環海호
이島國과如함으로半島라稱하나라起北緯三十三度三十五分하야止四十二度
卅五分하고起東經百二十四度三十分하야止百三十度三十五分하니面積이約八
萬二千方英里오南北의長은三千六百餘里오東西의廣은或千餘里或六七百里니
此는現今疆土之大畧也라

今에地理를試論호진되不可不歷代의疆土沿革를先舉하야歷史의一部를補코저



版 權

韓 國 開 化 期 學 術 誌

(全 11 卷, 55,000 원)

韓 國 學 文 獻 研 究 所 編

大 韓 自 強 會 月 報 上

自 第 一 號
至 第 七 號

發 行 者 亞 細 亞 文 化 社

서울特別市 中區 獎忠洞 一街 四八의 二四
登 錄 業 番 號 第 二 二 五 對 替 五 一 四 六 〇 四
電 話 (二九) 九 二 六 六 (二九) 九 〇 八 三

一 九 七 六 年 十 月 三 十 日 印 刷
一 九 七 六 年 十 二 月 十 日 發 行

分 克 不 可
定 價 5,000 원

…言い伝えによると、伯夷・叔斉は、首陽から時折、平壤まで箕子を訪ねた。李詹は「今の（黄海道のⅡ補註）海州に首陽山がある。『隋書』裴矩伝にいうところの『高麗はもともと孤竹国である』とは、今の海州を指す」と言う。竹溪・呉漢氏いわく「この説は、明らかな証拠はないが、何千年も伝えられてきたことを、どうしてでたらめだと決めつけられようか」と。順庵・安鼎福氏いわく『一統志』永平府（現在の河北省秦皇島）には『孤竹国有り、ここに三君塚在り』と記してあり、河東（現在の山西省永濟）の首陽山にもまた伯夷・叔斉の墓がある。これは必ず、片や本物、片や偽物である」と。中国史の信用できないことがこれほどならば、我国の首陽山が、どうして伯夷・叔斉が運命を天に委ねた地ではないと思えようか。以下次号

地理一

我国はアジア東部の一半島国である。西北は満洲と遼東と地を接し、西は黄海を境に清国山東省と隣接し、南は朝鮮海峡を臨み、東は日本海に接し、東北は豆満江を境に清国吉林省とロシア領ウラジオストク地方に近い。三面を海に囲まれ島国のごとくであるので、半島と称している。北緯 33 度 35 分から 42 度 25 分、東経 124 度 30 分から 130 度 35 分、面積が 8 万 2 千平方マイル、南北の長さは 3 千 6 百余里、東西の幅は 2 千余里あるいは 6 〓 7 百里。これが現在の国土の大略である。